

# 仕合わせの和

第174号

H. 28. 9. 1  
(毎月1日発行)

亡きご先祖様方は、

見てござる

住職 谷川寛俊

「間違いなく、お盆になると、亡き仏様が我が家に帰ってこられるのですね：」と、しみじみと語られたのは、岩手県石巻市駅前タクシードライバーです。

5年前に発生した東日本大震災。未曾有の大震災となった被災地の中でも、特に甚大な被害を出したのが石巻市でした。そんな石巻のタクシードライバー数人が、毎年8月に同じ様な経験をされるそうです。冒頭の文言は、地元新聞に掲載されていたものです。その見出しが興味をひきます。「駅のタクシードライバー達の幽霊現象」なるものでした。しかも毎年掲載されるそうです。ここで2, 3その体験談をご紹介します。

① 8月のある日、駅でお客さんを待っていました。すると、オーバーク

ートを着て真冬の服装をした三十代の女性のお客さんが乗車されたそうです。そして「南浜まで」と。南浜と言えば、津波で更地になっている場所で、ドライバーが「南浜で良いのですか？」と確認して出発。不思議に思いながら、南浜に到着したところでバックミラーを見ると：姿形がありませんでした。

② 震災から1年経過した8月のある日の夕方。駅でお客さんを待っていると、真夏なのに真冬のかっこうで、二十代の男性が乗ってきて、「まっすぐ行ってくれ」というので、しばらく走ったところで、バックミラーで後方を確認したら、誰もいなかった。

③ 夜タクシードライバーで巡回していると、真冬の格好をした十歳くらいの女の子が手をあげているので、運転手は道に迷っているのかと思って車を止めました。

そして「お父さんやお母さんは？」と声をかけると、「ひとりぼっちなの」と返答したので、迷子だと思い、家の近くまで送ってあげると、「おじちゃんあ

「仕合わせの和」  
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

りがとう」と言うなり、間もなく姿が消えたというのです。

これらはいずれも8月のお盆月に起こる現象なのだそうです。思えば、今なお行方不明の方が大勢いらつしやるわけです。私達の肉眼では見えないけれど、法華経・お題目の力で、どうぞ安心してお休み下さいと願わずにはおられません。私達のご先祖様方も、家族の皆、元気で暮らしているかな：？と、必ずや見守っていて下さっているのです。ですから、その子孫である私達が常に忘れないように心掛ける事が何よりのなぐさめであり、恩返しとなつて、亡き靈位にその真心が届くのです。その行為として追善供養（塔婆をたて、法要を行う）という善行が行われるのであります。

今月は「秋のお彼岸」の月です。毎日忙しい、忙しいで暮らしている日々の中で、せめてお彼岸の一週間は、お仏壇に、またお寺に参詣して、心を込

めて亡きご先祖、ご両親、兄弟姉妹、そして有縁無縁の方々には供養し誠を捧げましょう。

